国土交通省からのお知らせです

2019年8月30日より、羽田空港の新飛行経路に関する飛行検査を実施いたします。

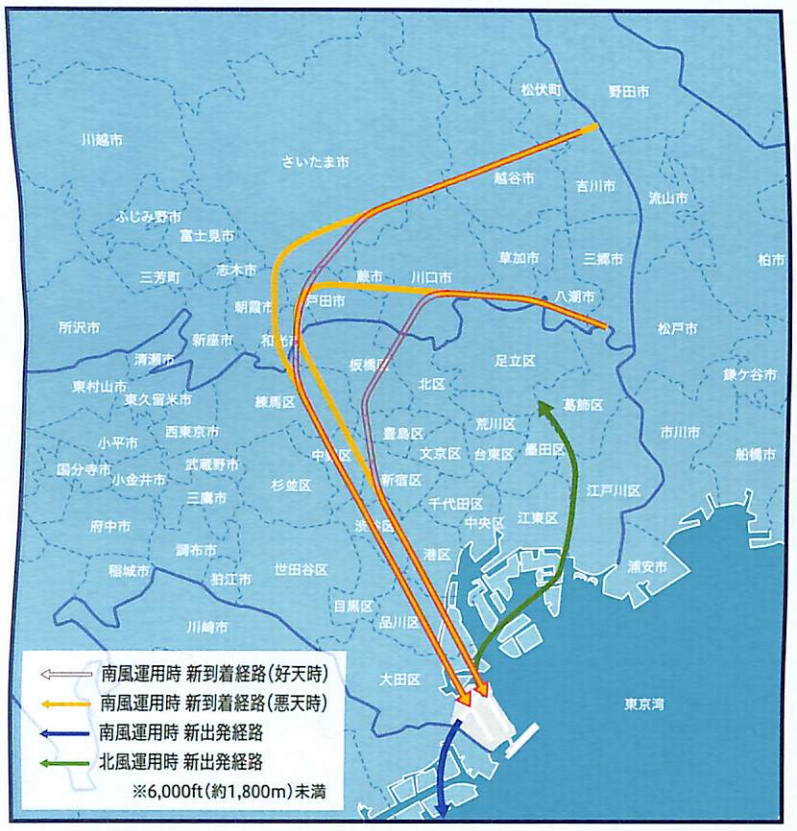
羽田空港では、国際線の増便に向けて、新しい飛行経路について2015年より各地域で説明会を開催し、多くの方々のご意見を丁寧に伺いながら、追加の対策についても検討を重ねてまいりました。そして、今後も騒音・落下物対策、引き続きの丁寧な情報提供等を行うこととした上で、2020年3月29日から新飛行経路の運用を開始し、国際線を増便することといたしました。
運用に先立ち、新飛行経路を離着陸する航空機が安全に飛行できるようにするため、航空法の規定に基づき飛行検査を実施いたします。**本飛行検査は、新飛行経路を飛行するだけではなく、様々なコース等を広範囲に繰り返し飛行します。**ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。

検査予定日時

2019年 8月30日[金]～12月下旬
午前6:00～午前8:00を中心に実施[土日祝日含む]
※羽田空港の運用への影響を最小限にするため。なお、一部の検査は上記以外の日中時間帯にも実施いたします。

飛行検査についてのさらに詳しい情報は、ホームページをご覧ください。
羽田空港のこれから　検索

新飛行経路



飛行検査機

セスナ式 525C型
(サイテーション　CJ4)
- 全長:16.26m
- 全幅:15.49m
- 巡航速度:835km/h
- 航続距離:3,300km

[サイズ比較]

[検査事項]
- 航空保安施設等が正常に機能しているかを検査します。
- 出発・進入方式等が安全上問題ないかを検証します。

- 飛行検査は、新飛行経路に加え、図で示しているコースやその周辺を飛行します。
- 検査の目的のため、新飛行経路を飛行する航空機の通常高度よりも低い高度で飛行する場合があります。
- 検査のための機器調整等を行っている間に、空中待機を行うことがあります。
- 検査状況により、検査回数が増減することがあります。

※下に掲げる検査以外にも出発経路に関する検査(数回程度)等を行います。詳細については、ホームページをご覧ください。

飛行検査の主な飛行コース

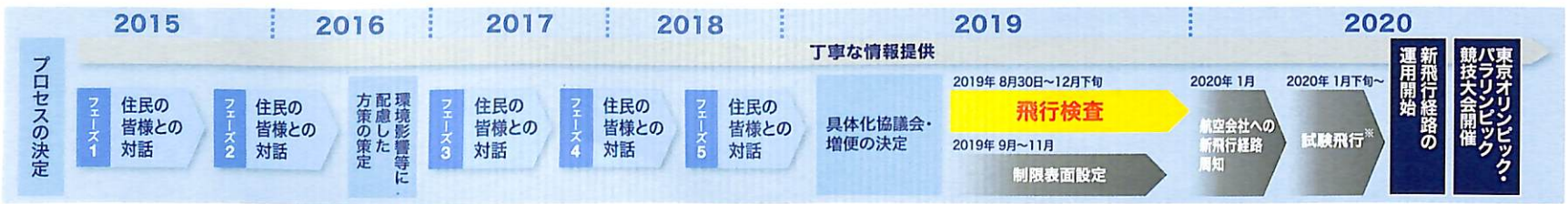
高度 頻度

① ローカライザー電波の横幅を測定
午前6:00～午前8:00を含む日中時間帯に実施

② グライドスロープ電波の縦幅を測定
午前6:00～午前8:00実施

③ 各電波が正確な進入コースを示しているかを測定
午前6:00～午前8:00実施

①～③の各検査の詳細は裏面をご覧ください。



※試験飛行は2020年1月下旬以降に実施する予定です。詳しくは、ホームページをご覧ください。

飛行検査は、空港に離着陸したり航空路を飛行する航空機の安全を守るために行われます。

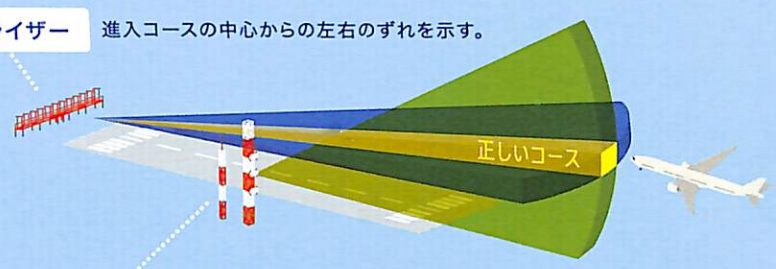
航空機が安全に飛行するために、航空機に正しい位置情報を伝える施設や、航空機が安全に着陸するための電波で誘導する施設など、空港をはじめ、日本各地には様々な航空保安施設等が設置されています。それらの航空保安施設等が正常に機能しているか等を検査するために飛行検査が実施されます。

空の安全を支える航空保安施設等

❶ 航空路監視レーダー　❷ VOR/DME　❸ ローカライザー　❹ 空港監視レーダー　❺ グライドスロープ　❻ 航空灯火

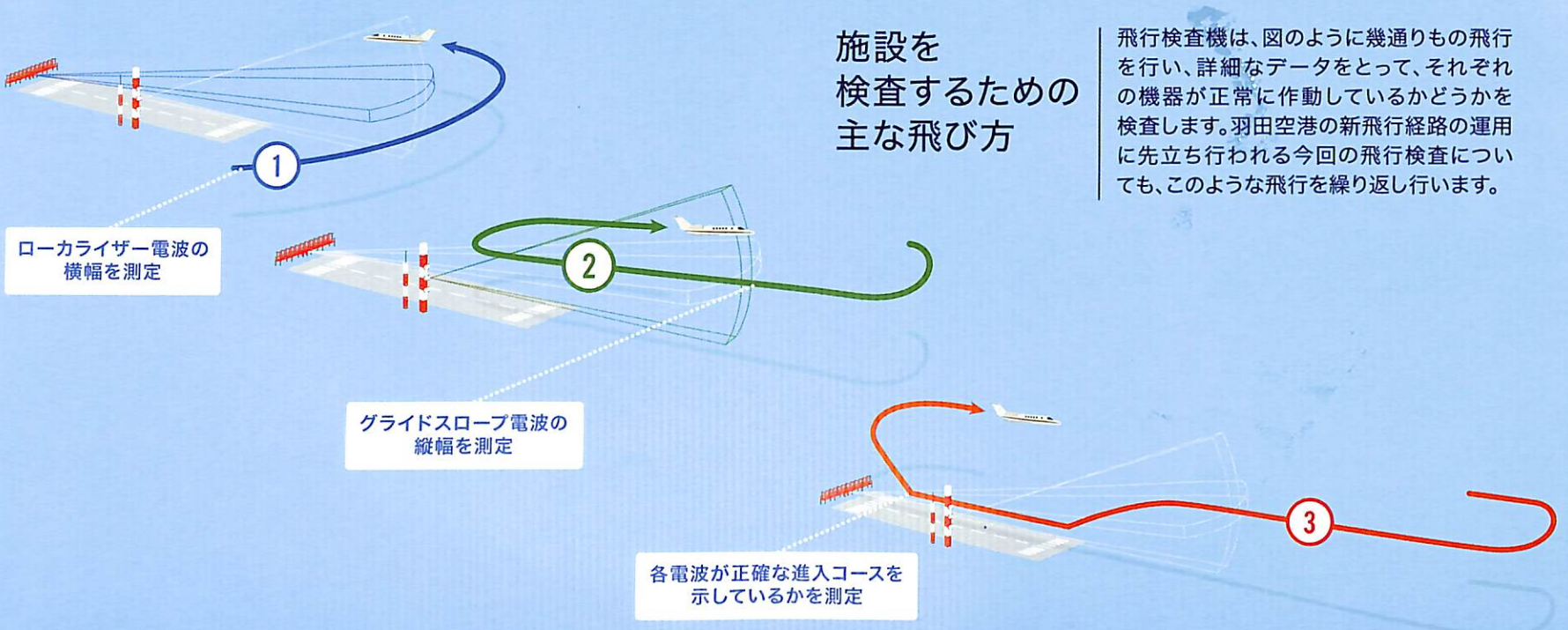
着陸を誘導する施設の仕組み

空港には、視界が悪い時でも安全に着陸できるように誘導する装置が設けられています。その仕組みは、2種類の電波を発射し、その電波がクロスして生じるラインによって正確な進入コースを示すものです。パイロットは計器によって、このコースを飛んでいるかどうかを確認し、安全に着陸できるのです。



施設を検査するための主な飛び方

飛行検査機は、図のように幾通りもの飛行を行い、詳細なデータをとって、それぞれの機器が正常に作動しているかどうかを検査します。羽田空港の新飛行経路の運用に先立ち行われる今回の飛行検査についても、このような飛行を繰り返し行います。



ご不明な点やご質問がございましたら、特設ホームページをご参照いただくか、電話窓口までお問い合わせください。

羽田空港のこれから　検索
http://www.mlit.go.jp/koku/haneda/

Tel:0570-001-160　IP電話からは 03-5908-2420
『国土交通省「羽田空港のこれから」に関する電話窓口』受付時間：平日 9:30～19:00

国土交通省